



会員 木下 圭一

弁護士は嫌われ者？

1 はじめに

弁護士登録をして1年あまり、世間で弁護士は嫌われ者のようである。弁護士は、依頼者の利益を一番に考えることは当然であるが、必ずしも一方的な主張をするわけではない。しかし、わけもなく遠ざけられていることがあるようである。

2 弁護士は譲らない？

依頼者の相手方に10年以上放置された手続をしてもらう必要があった。手続が放置されたのには、双方に落ち度があったが、相手方はそのまま放置してもさほどの不利益はなく、こちらの立場は弱かった。しかし、何度面会を要請しても「弁護士は来なくていい」と文書での説明を求められた。結局、相手方から示された条件は、想定よりもこちらにとってかなり有利なものであった。この間、依頼者は、相手方に電話でかなりやり込められていたのだが、弁護士は譲歩しないとかわれたらしく、直接の交渉をさげ確実に手にできる条件を計算したようである。

3 弁護士は敵にしたいくない？

知人が仕事を辞めたら法外な違約金を請求されたという相談。話を聞くと違約金の支払義務がないどころか、残業代金が支払われていない。知人から会社に伝えたとこ、会社は直接会って話がしたいという。弁護士同席ならと答えると、弁護士が入ると大事になると拒否された。そもそも違約金を払わなければ弁護士に依頼すると言っていたのは会社であるのに全く不可解な言い分である。弁護士は自分の味方につけても、敵にはしたくないらしい。

4 弁護士は杓子定規？

ある会社から行政の許可が得られないという相談。

関係法令を調べると、行政庁の説明には理由がないように思えた。行政庁を訪問すると、あっさりと問題は解決した。しかしその後、その事業に関係する他の会社から弁護士がいると柔軟な話し合いができないと釘を刺されることに。近隣住民や行政庁の理解や協力を得るため必要ならば合理的な行政指導は受けるべきだし、むしろそれが会社の利益になるのだが、弁護士は法令の規定どおりにしか動かないと思われているようだ。

5 嫌われるのはやむを得ない？

弁護士の職務は、あるべき状態を維持・回復することであると思っている。これに反する状態を回復したい者にとっては煙たい存在であることは当然であるが、すべてを糺そうとすればかえって依頼者の利益を損なうことにもなりかねない。それゆえ柔軟な解決が目指されるのだが、弁護士は頭が固いと思われているようである。私の対応が拙いことも一因だろうから、諸先輩方のようにムキにならずに上手いいなすことを覚えて、軽やかに問題を解決できるようになりたいと思うのは正直なところである。しかし一方で、あるべき状態を回復するため猪突猛進し、嫌われ続けたいと思うのも正直なところである。おそらく解決しない問題なのだろうが、少なくとも真っ直ぐ向き合い続けたいと思う。

6 最後に

クラス担任によるご指名から脱稿まで思案の連続であった。しかし、結局、自分の思うところを素直に書くことになった。脱稿後、同期の寄稿を読んでみたところ、共感できるものが多くあり最初から素直に書けばよかったと気付かされた。今後執筆される方は、肩の力を抜いて自由に書いてもらえればと思う。